

～ 貨車の台車側ばりが冰雪に押し上げられたこと等により列車が脱線した事故 ～

鉄道事業者名：日本貨物鉄道株式会社

事故種類：列車脱線事故

発生日時：平成30年2月24日 2時09分ごろ

発生場所：石勝線 トマム駅構内（北海道 勇払郡 占冠村）

## <概要>

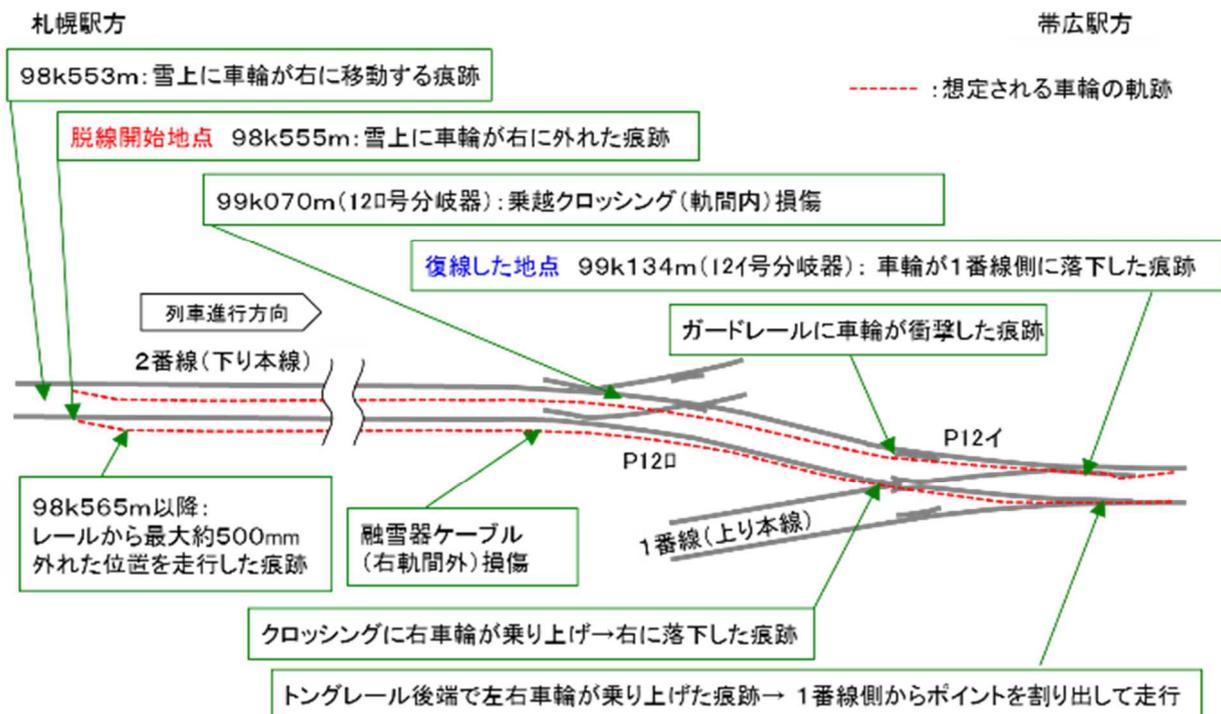
平成30年2月24日、3時55分ごろ、除雪のために出動していた北海道旅客鉄道株式会社の排雪モーターカーが石勝線トマム駅下り本線に到着した際、同モーターカーに乗車していた保線係員は、輸送指令から同駅の分岐器が不転換であるとの連絡を受けた。このため、保線係員が分岐器を確認したところ、列車が脱線して走行した痕跡を発見した。

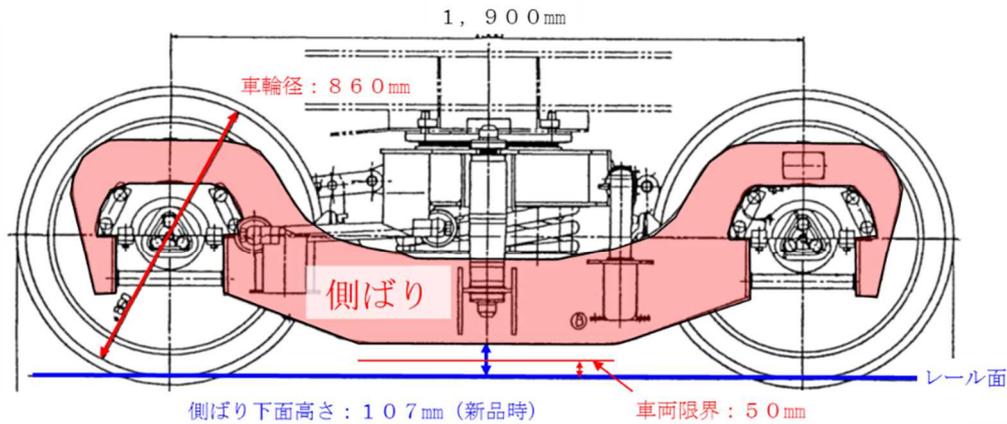
脱線した列車を特定するため、当該箇所を通過した列車の車輪を確認したところ、排雪モーターカーが走行する2本前の列車である日本貨物鉄道株式会社の札幌貨物ターミナル駅発帯広貨物駅行き高速貨第2077列車の3両目前台車第1軸の車輪に脱線して走行した痕跡を発見した。同列車は、平成30年2月24日、2時09分ごろ、同駅を速度約49km/hで通過していた。また、その後の調査により、同駅の分岐器付近において列車が復線した痕跡が確認された。

同列車には運転士1名が乗務していたが、負傷はなかった。



## <脱線の状況>





本件貨車の台車の側ばり

<原因>

本事故は、列車が駅構内の直線区間を通過中、線路上に多くの氷雪が堆積していた箇所において、3両目前台車第1軸の右車輪のフランジが右レールを乗り越えて脱線したことにより発生し、その後、脱線した状態で通過した分岐器内で復線したものと考えられる。

列車の3両目前台車第1軸が脱線したことについては、3両目前台車の側ばりが線路に堆積していた氷雪により押し上げられた状態になるとともに、フランジウェー付近にあった硬い氷雪により車輪フランジが持ち上がったことによる可能性があると考えられる。

脱線の発生箇所付近の線路上に多くの氷雪が堆積していたことについては、本事故発生の前日の降雪量及び積雪量が多かったこと、及び本事故発生の6日前以降に現場付近の線路の除雪が行われていなかったことが関与した可能性があると考えられる。

<再発防止策>

本事故は、堆積雪が多い線路上を列車が走行したことにより発生したものと考えられる。また、除雪計画における排雪モーターカーでの除雪時機より前に脱線が発生している。

よって、線路の除雪については、降雪及び積雪、現場の堆積雪等の状況を考慮して、適切な時機、範囲及び方法を判断し、実施することが必要であり、機械除雪の頻度を極力増やすこと、機械除雪の補完として行う人力除雪は、ホーム下に限らず列車運行の安全上必要な箇所を判断のうえ実施すること等が同種事故の再発防止策として有効であると考えられる。

なお、除雪にあたっては、本事故の原因となった貨車の側ばり位置を考慮し、貨物列車が走行する線区において、軌間外側にレール面より高く形成された氷雪に特に注意する必要がある。